



国際スポーツ大会に向けた取組み

《インドネシア共和国バドミントンチームとの交流》



2019年1月21日
熊本県国際スポーツ大会推進課



《本日の内容》

- 1 熊本県における国際スポーツ大会
- 2 インドネシアキャンプ誘致の取組み
- 3 地域活性化に向けた取組み



熊本県における国際スポーツ大会



熊本の国際スポーツイベントイヤーズ



「国際スポーツイベントイヤーズ」
が熊本に訪れる



国際スポーツの実施に向けて

2013.10	2019女子ハンドボール世界選手権大会の日本・熊本における開催決定
2014. 3	熊本県2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部設置
2015. 1	2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本推進協議会設立
2015. 3	ラグビーワールドカップ2019開催都市の決定(熊本県・熊本市を含む12都市)
2015. 4	県庁観光課内に国際スポーツ大会推進班設置
2015. 6	オリ・パラ競技大会推進本部を『くまもと国際スポーツ大会推進本部』に再編
2015. 8	2019女子ハンドボール世界選手権大会組織委員会設立 ラグビーワールドカップ2019熊本推進協議議会設立
2016. 4	熊本国際スポーツ大会推進事務局設置(熊本県及び熊本市合同)
2016.11	熊本国際スポーツ大会実行委員会設立



○ 2018年(平成28年)4月に熊本県と熊本市が合同で設置

○ 2018年(平成30年)4月1日現在の状況

- ・事務局 熊本県庁新館8階
- ・職員数 69名(熊本県、県警、熊本市、八代市、山鹿市)
- ・主な業務
 - 2019女子ハンドボール世界選権大会に関すること
 - ラグビーワールドカップ2019に関すること
 - 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関すること 他

○ 国際スポーツ大会で目指す成果

- 👉 ラグビーワールドカップ2試合及び世界女子ハンドボール選手権96試合すべての円滑な実施運営を成功させる。
- 👉 ラグビー6万人及びハンドボール30万人の観客動員目標を達成する。
- 👉 これらの大会から得られる成果を「レガシー(遺産)」として活用し、地域・経済・国際・文化交流等の拡大を図る。



インドネシアキャンプ誘致の取組み



キャンプ誘致に向けた本県の実施計画

○キャンプ誘致の目的

●ソフト面でのレガシー

- ➡ キャンプを通じた本県の魅力発信によって得られるインバウンド等の経済効果
- ➡ 練習公開等による県内アスリートや未来のアスリートである子ども達に夢をもたらすスポーツ振興
- ➡ アスリート等との交流を通じた国際交流、おもてなし活動等を通じた地域振興

●ハード面でのレガシー

- ➡ アスリートが本番で最高のパフォーマンスを発揮するためのトレーニング施設の整備

本県のキャンプの状況(2019年1月15日現在)

受入自治体	受入国・地域	競技名	状況
熊本県	インドネシア	バドミントン	決定
熊本市	ドイツ	競泳	決定
八代市	台湾	バドミントン	交渉中
菊池市	欧州の国等	ボート・カヌー	交渉中
玉名市	アンゴラ	女子ハンド	交渉中



【熊本県オリンピック・パラリンピック等誘致連携事業】

キャンプ誘致及び受入れを目的に組織された団体に県も参加し、活動に対する経費の一部を負担金として支援する制度。

《誘致段階》

誘致活動に係る費用の1/2(上限額100万円)

《受入段階》

合宿参加者1人当たり5000円に宿泊数を乗じた金額(上限額100万円)



インドネシアとの交流

○これまでの経緯

期 日	内 容
2015年 6月	インドネシアバドミントン協会ジータ・ウィルジャワン会長との意見交換。事前キャンプ地の熊本への誘致を提案。
2016年 1月	熊本県、インドネシア(バドミントン)についてホストタウン登録
2016年 7月	インドネシアバドミントン協会訪問。事前キャンプ地誘致に向け、①ジュニア交流、②熊本視察を提案。
2016年10月	インドネシアバドミントン協会 ウィラント会長就任にあたり、お祝いのメッセージ送付し、事前キャンプ地誘致を提案。
2017年 6月 7日～10日	インドネシアバドミントン協会訪問。事前キャンプ地誘致に向け①少年男子等との交流戦、②熊本視察の提案等を行う。
2017年 8月12日	インドネシア駐日大使来熊。事前キャンプ地誘致に向け、駐日大使、県バドミントン協会、県、3者で意見交換会実施。
2017年 8月26日	インドネシア共和国独立記念祝賀会(帝国ホテル)
2017年10月30日 ～11月 4日	インドネシアバドミントンチーム、協会会長・幹部来熊。再春館製薬所バドミントンチーム、県少年男子、県少年女子との交流試合を実施し、施設等を視察。
2017年11月 3日	インドネシア共和国バドミントン協会、熊本県バドミントン協会及び熊本県との間のスポーツ交流の促進に関する覚書を締結。
2017年12月21日	事前キャンプ地決定。
2018年 2月 4日	インドネシアにて「インドネシア共和国バドミントンチームの東京2020オリンピック事前キャンプ実施に関する基本合意書」を締結。
2018年 9月28日 ～10月 2日	インドネシアにてジュニア交流試合を実施。(熊本から6人の高校生がインドネシアを訪問)
2018年11月 1日～ 3日	駐日インドネシア大使夫妻を熊本に招へいし、キャンプ受入に関する意見交換会等の交流事業を実施。

※なお、2016年(平成28年)11月にインドネシア・バリ州と本県の間で国際交流に関する覚書を締結



インドネシアとの交流

○ホストシティ・タウン事業

交流の相手国: インドネシア共和国

☞ バドミントン競技を通して、選手や指導者の深いつながり

○インドネシアバドミントン事前キャンプ基本合意

☞ インドネシアバドミントン協会、熊本県バドミントン協会及び熊本県で事前キャンプ実施に関する基本合意書(LOI)に調印

日 時: 2019年(平成30年)2月4日

場 所: インドネシア・ジャカルタ





インドネシアとの交流

○バドミントンジュニア交流事業の実施

期 間:平成30（2018）年9月28日（金）～10月2日（火）

概 要:交流事業の一環として、熊本の高校生がインドネシアで現地ジュニアチームと親善試合を実施。



○インドネシア共和国特命全権大使の熊本視察

期 間:平成30（2018）年11月1日（木）～11月3日（土）

概 要:駐日インドネシア共和国大使館のアリフィン・タスリフ特命全権大使を熊本に招聘し、事前キャンプの成功に向け、大使をはじめとする有識者の意見交換会を開催するとともに、熊本の観光地や在熊企業を視察いただいた。





地域活性化に向けた取組み ～くまもとハロープログラム～



国際スポーツ大会のレガシー

～2019-2020年の国際スポーツ大会開催やキャンプ地誘致を通じて、
熊本の次世代に有益なレガシー(遺産)を残していこう！～

○趣 旨

国際スポーツ大会開催やキャンプ地誘致活動を通して得られる様々な成果を、レガシーとして大会が終了した後も継続させ、熊本地震からの復興に繋げるため、県内の行政・企業・団体そして住民による各種取組みの方向性をとりまとめる。

「くまもとハロープログラム(※)」

2019～2020年に開催される“Handball・Rugby・OlympicParalympic”の頭文字を取り「くまもとハロー(HaRO)プログラム」と命名





くまもとハロー(HaRO)プログラム

○取り組みの4つの方向性

1. 震災からの復興の姿の発信

2. スポーツの普及と振興

- (1) 国際スポーツ大会の成功と東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致の実現
- (2) 国内・世界で活躍する熊本のトップアスリートの養成
- (3) 誰もが生涯、スポーツを楽しめる環境の整備

3. インバウンド観光の推進

- (1) リピーターの獲得及びFIT化に対応した取り組み
- (2) スポーツツーリズムの発展と定着

4. 国際交流の促進

- (1) 来熊する各国チームとの直接交流の促進
- (2) 訪問者が気軽に熊本の文化と触れ合う機会の創出





熊本国際スポーツ大会アンバサダー
「くまモン」

ご清聴
ありがとうございました

